

Teamsを用いたライブイベント実施と課題

長安 義文¹

¹関東地方整備局 甲府河川国道事務所 河川管理課 (〒400-8578 山梨県甲府市緑が丘1丁目10-1) .

2019年12月以降世界中で爆発的流行をおこし、日本国内においても2度の緊急事態宣言の後現在においても第4波が懸念されている新型コロナウイルスにより、関東地方整備局でも昨年5月の事務連絡において、「各事務所が主催する各種会議は、原則実施せず、やむを得ず実施する場合は、WEB会議を活用することとし、対面では最低限の人数で行うこととする。」など、3密を避ける業務の執行体制をとった。例年ホールを使った安全協議会を開催してきたが、この状況では難しく、Teamsを用いたWEB配信での開催にこぎ着けることができた。開催までの経過と問題点について報告する。

キーワード Teams, WEB配信

1. はじめに

甲府河川国道事務所は工事安全協議会の総会を例年11月に山梨県立文学館講堂において200名超の各施工業者および現場を持っている測量業者等、講師2名発表者4名の参加者と2時間程の規模で開催しておりました。令和2年度は新型コロナの感染拡大防止の観点から大人数でのイベントを行う事が難しい状況であり、こういった形での開催が望ましいか検討しておりました。



写真-1 例年の開催風景 (山梨県立文学館講堂)

想定した開催方法と課題は次のとおりである。

	開催方法	課題
①	一部の代表者と開催しその内容を各社にペーパーで配る。	資料を読むだけになる。
②	支部毎 (各出張所毎に安全協議会の支部を設置している) のWEB会議形式で行い施工者は各支部の会議室でプロジェクター等による視聴。	出張所が密になる。
③	各支部毎に現場で開催しかつ、参加者を絞る。	参加できない施工者が出る。

開催方法を検討していた9月頃はTeamsによるWEB配信は有効化されておらず、WEB会議方式で200名あまりをコントロールする事は事務所のWEB及びPCの環境では難しい、また回線上也負荷が大きいため開催の目処がたたなかった。

10月に入りTeamsのライブ配信機能（ストリーミング配信）が有効化された。ライブ配信の性質上質問等は受けられない等の問題はあるが情報提供は可能であると判断しWEB配信形式で執り行うこととなった。

2. ライブ配信と会場開催の違い

会場で実施される従来型の開催とライブ配信には、運営側・参加側で下記のような違いがある。

		会場開催	ライブ配信
運営側	準備	<ul style="list-style-type: none"> 会場の確保 運営メンバー（多数）の確保 配付資料の作成、印刷 	<ul style="list-style-type: none"> 配信スタジオ（会議室等）の確保 PC、カメラの準備
	当日	<ul style="list-style-type: none"> 荷物の運搬、搬入 会場の設営 受付 来客、講師の誘導 	<ul style="list-style-type: none"> 講師の誘導 資料のアップロード 参加状況の確認 配信状況の確認
	開催後	<ul style="list-style-type: none"> 後片付け 会場費の支払い 	<ul style="list-style-type: none"> 配信スタジオの片付け 録画データの配布
参加者側		<ul style="list-style-type: none"> 会場まで移動する。 移動、聴講によるスケジュールの調整が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> PC、スマートフォン、タブレットで現場で視聴 端末、モニター等があれば参加者の制限なし

日午前中まで行った。その結果、写真-2のように事務所長の目の前にカメラを配置しなければならない状況となり、取材映えの非常に悪いセッティングとなった。



写真-2 セッティング完了後

光学ズームの倍率が高いWEBカメラは事務所に存在せず、ビデオカメラはセキュリティの関係上PCに接続できない。そこで通常のWEBカメラで撮影せざるを得なかったがカメラにズーム機能はなかったため間近にカメラを設置した。



写真-3 発表者の状況

3. ライブ配信の運営

配信前々日から会場の設営を始めた。今回は地整内部のWEB会議ではなく、対象が一般の施工業者であり、外部からも講師として建設業協会の職員にも来てもらえることとなっていた。また、業界紙も取材に来ることとなっていたため、本番当日と同様のセッティングを行い同様の条件で映像の鮮明さや音声の聞こえ具合、資料の動き等を確認し当日と同様のシナリオで試験配信を行い視聴者がスムーズに視聴できる環境を確定する作業を前

講演がPCであったため、会場の参加者には内容が見られないのでプロジェクターとスクリーンを設置した。

運営側の問題点としては下記のとおりである。

- ・撮影用カメラの性能（ズームできない）
- ・講演者が原稿データを差し替えたいとUSBで持参したため、差し替えられなかった。（PCのセキュリティ）
- ・配信確認用のPCをセットしなかったため配信状況の確認に非常に手間取った。

こういったことからWEB配信専用の会議室（スタジオ）の設置があればより配信の質の向上やセッティングにかかるコストを削減できる。

4. アンケート結果

参加者からの主な意見・感想は以下のとおりである。

- ・会場では配布資料が見つらいが、WEB方式では画面上で良く見えて良かった。
- ・資料と講師の画像を同時に配信してほしい。
- ・会場への移動等の時間が省略できたため、現場管理業務にも有利でした
- ・開始まで音声がか切れていたため、配信者側の手違いか、受信者側の設定ミスか不安だった。

5. ライブ配信のメリット・デメリット

ライブ配信のメリット・デメリットをまとめると次のとおりである。

メリット

- ・より多くの参加者を募ることができる。
- ・どの参加者にも同質のものを提供できる。
- ・会場や準備に関わる費用を削減できる。
- ・会場までの移動コストや時間を削減できる

デメリット

- ・事前準備に神経をつかう。会場での開催に比べ失敗できないため念入りに準備をし、あらゆるトラブルを想定して、本番に臨まなければなら

ない。

- ・来場者同士のコミュニケーションがない。
- ・会場の一体感がない

メリットとデメリット双方あるが、主催者と参加者双方にコスト削減と拘束時間の短縮があるのが最大のメリットといえる。会場で行った方が臨場感や取材映えはするが、今後こういった開催方法が増えていく事と想定できる。

6. 今後のTeamsによるWEB配信について

Teamsは当初こそビジネス向けのビデオチャットツールという印象でしたが、Office ツールとの連携、やファイルの共有等機能の充実とともに間違いなく業務効率化に繋がるビジネスソフトとして成長してきました。WEB配信機能が追加されたことにより、不特定多数への情報発信が可能になったことから今後様々な運用が期待される。例えば次のような活用事例が想定される。

活用例

- ・ドローンのカメラ映像をTeamsを中継器としてWEB配信し災害時に現場状況の共有を図る。
- ・遠隔臨場のツールとして使用
- ・災害発生時に現地状況や支部からの指示などを投稿することにより職員の情報共有ツールとして活用。

地方整備局業務におけるTeams活用事例集も関東地方整備局のイントラ「TV会議のサイト」に掲載されておりますのでご一読ください。